

玉川ダム(国管理)の放流量絞り込みによる効果(雄物川水系雄物川:神宮寺地点)

R6. 7. 16

- 玉川ダム流域では、7月8日19時から雨が降り始め、防災操作(洪水調節)に向けて、ダムに貯める容量を確保するために放流量を増量しながら調整していた。
- その後、下流の玉川や合流後の雄物川本川(神宮寺観測所:大仙市)の水位が氾濫危険水位を超えて上昇するおそれがあったため、**放流量調整を中断し、容量の確保に必要な放流量に対し大幅に絞り込む操作**を、9日14時~9日22時に実施しダムに貯め込むこととした。
- この操作により、7月9日には神宮寺地点で**ピーク時に河川水位を約16cm*低減させたと推測**され、被害拡大防止に寄与した。
- なお、11日にも氾濫危険水位を超過する見込みがあったことから、10日17時~11日9時にかけて再度放流量を絞り込む操作を行い、ピーク時に河川水位を約11cm*低減させたと推測される。
(*低減水位は速報値であり、今後精査により変わる可能性があります。)

